

岐阜県スマート農業推進計画

目標評価（R1～R4）

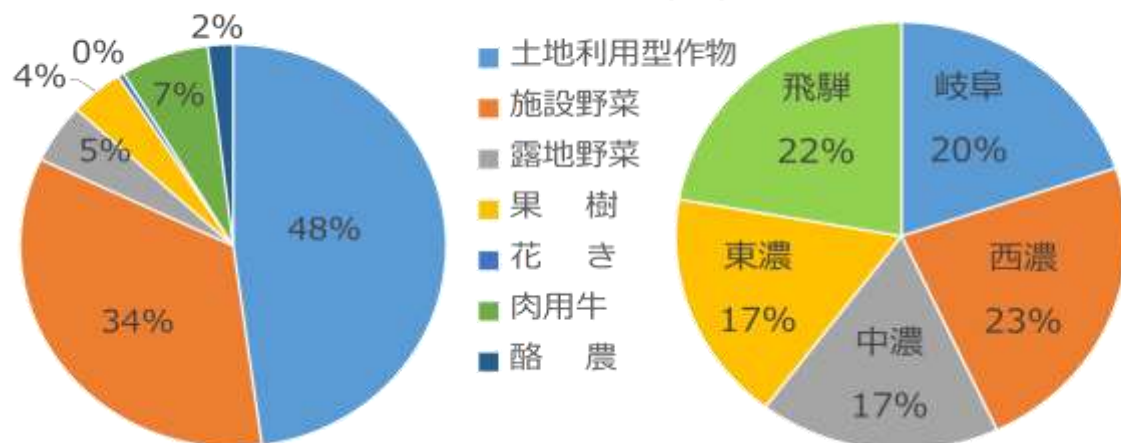
○ 岐阜県スマート農業推進計画（R1～R5）の進捗

目標項目①	スマート農業技術導入経営体数							
計画の 進捗状況	年度	現状値	中間目標値				目標値	R4評価
		H30	R1	R2	R3	R4	R5	
	目標値	—	200	285	370	455	550	A
	実績値	168	238	345	418	R5.5確定		123.76%

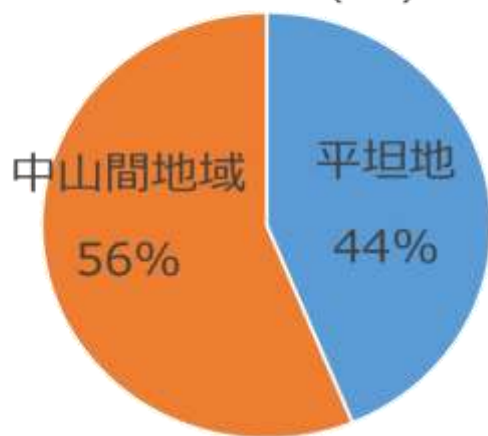
目標の考え方 ほぼすべての法人でスマート農業技術を導入

導入状況

(1) 営農類型別導入経営体数(R3) (2) 地域別導入経営体数(R3)



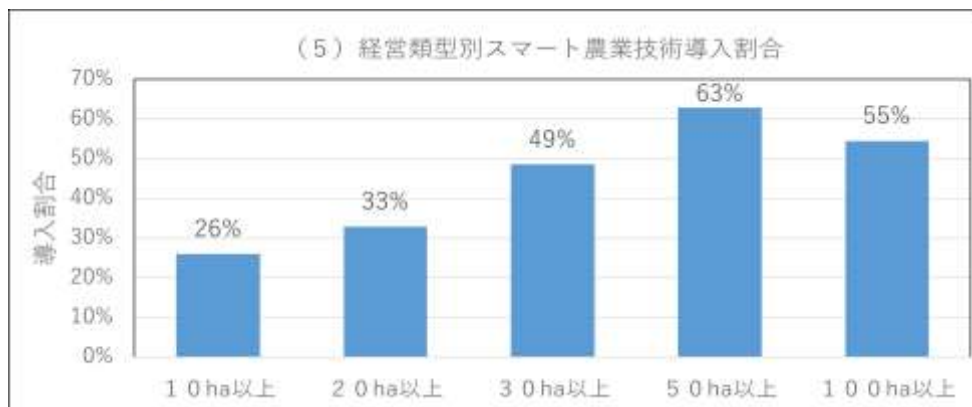
(3) 平坦地と
中山間地域(R3)



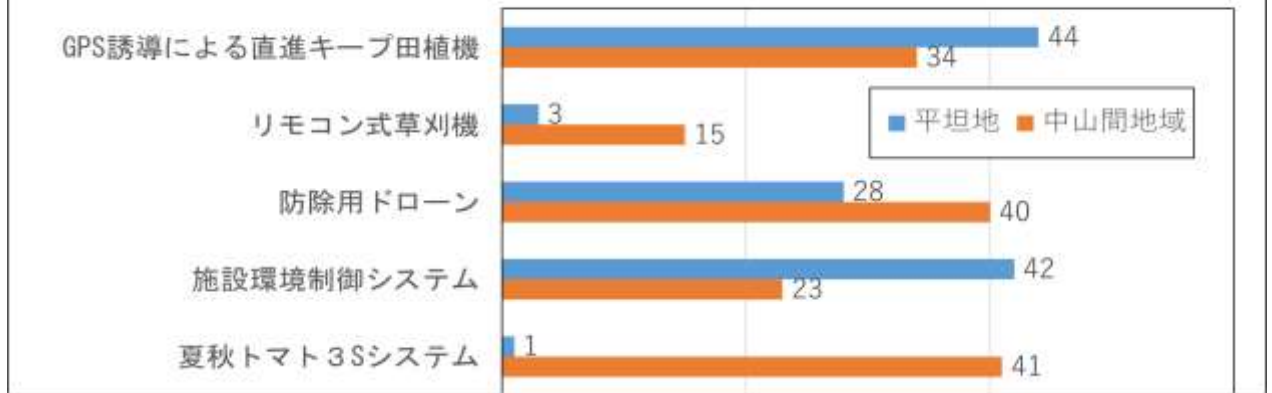
(4) 法人経営体の導入割合 (R3)



(5) 経営類型別スマート農業技術導入割合



(6) 県内の地域別スマート農業技術の導入状況



分析結果

- (1) 営農類型別導入状況
 - ・土地利用型作物と施設園芸では導入経営体数が多い
 - ・特に花きの導入実績が少ない（導入実績2件）
 - ・露地野菜や果樹への導入も必要
- (2) 地域別導入状況
 - ・地域の差は少なく、地域に隔たりなく普及している
- (3) 平坦地と中山間地域の比較
 - ・中山間地域におけるスマート農業技術の導入割合が高い
- (4) 法人経営における導入状況
 - ・目標に対して、法人経営体の導入が少ない。
- (5) 経営規模別スマート農業技術導入状況
 - ・規模の大きい経営体での導入割合が高い。
- (6) 地域別スマート農業技術導入状況
 - ・平坦地では、田植機や施設環境制御システムの導入が多い
 - ・中山間地域では、リモコン式草刈機や防除用ドローン、夏秋トマト3Sシステムが多い

今後の対応

- 導入進んでいない営農類型への技術導入推進
 - ・花きでは、環境モニタリング装置を活用したデータに基づいた栽培管理の取り組みの推進
 - ・果樹では、くりのスマート農業実証プロジェクト成果を広く周知し、果樹産地への導入を促進
- 地域に根ざしたスマート農業推進研修の充実
 - ・地域の実情に応じたスマート農業の実演会等の実施

目標項目②	スマート農業に取り組む産地数							
計画の 進捗状況	年度	現状値	中間目標値				目標値	R4評価
		H30	R1	R2	R3	R4	R5	A
	目標値	—	2	4	6	8	10	
実績値	0	4	9	12	16		200.00%	
目標の考え方	各農林事務所 1 ヶ所×10農林事務所							
取組概要	○国事業（産地の戦略づくり支援、データ駆動型農業の実践・展開支援、グリーンな栽培体系への転換サポート）の活用を支援し延べ16産地で取組開始。							
	国事業	産地の戦略づくり支援	データ駆動型農業の実践・展開支援		グリーンな栽培体系への転換サポート			
	事業概要	産地に適したICT等の先端技術と栽培管理体系とを融合させた新たな営農技術体系の検討	産地においてデータの収集・分析を行い、最適な栽培体系を構築する取組み（事業期間:3ケ年）		スマート農業技術などの省力化技術に、環境へ配慮した栽培技術を加えた栽培体系への転換（事業期間：1～3年）			
	取組産地数							
	R1年度	水稻3産地（西濃、恵那） ほうれん草1産地（飛騨）						
	R2年度	水稻2産地（西濃、恵那） 大豆1産地（西濃） いちご1産地（岐阜）	冬春トマト1産地（西濃） (R2～R4)					
	R3年度	大根1産地（郡上） 柿1産地（可茂）	夏秋トマト1産地（飛騨） (R3～R5)					
	R4年度				えごま1産地（岐阜） 柿1産地（揖斐） キウイ1産地（中濃） 麦・大豆1産地（西濃） (R4～R5,R6)			
		10		2		4		
* グリーンな栽培体系への転換サポートはスマート農業技術を活用する産地のみをカウント								

<p>課題・ 新たなニーズ</p>	<p>○農業資材（肥料、燃料等）の高騰など農業の収益力低下が懸念される中、産地単位でのデータ活用による収量、品質向上による産地収益力向上が必要。また、みどりの食料システム戦略の実現に向けた生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現する取組み実施。</p> <p>○いちご、切りバラ、きゅうり産地でデータ活用型農業への関心が高まっており、生産者の取組み支援が必要。</p> <p>○飛騨夏秋トマトスマート農業協議会が取り組む環境データを活用した灰色かび病の警報システムについて、可茂、恵那でにおいて関心が高まっており、同取組の他産地へ横展開が必要。</p> <p>○東濃、下呂地域における取組がないが、同地域のトマト生産者において環境制御を活用した安定生産等に関する関心が高まっており、産地のニーズを把握し、生産者が検証等を行える環境づくりが必要。</p>
<p>今後の対応</p>	<p>○農業DXプラットフォームの構築を見据え、産地におけるデータを活用した栽培改善や経営改善する取組みを重点的に支援 （各産地の動き、支援）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東濃、下呂地域の生産者に対し環境モニタリング機器の貸し出しや県主催の研修会への誘導 ・いちご、切りバラ産地における、データ駆動型農業の実践・展開支援事業の活用支援 ・いちご、パプリカ、リンゴ、玉ねぎ、栗におけるスマート農業技術を活用したグリーンな栽培体系への転換サポートの活用支援 ・飛騨夏秋トマトスマート農業協議会の取組の他産地への波及、共有できる仕組みづくり

目標項目③	新たな栽培支援技術の開発数							
計画の 進捗状況	年度	現状値	中間目標値				目標値	R4評価
		H30	R1	R2	R3	R4	R5	A
	目標値	—	0	0	1	1	5	
実績値	0	0	0	1	3			
目標の考え方	県試験研究機関で新たに開発される栽培支援技術数							
開発予定技術	<ul style="list-style-type: none"> ・環境制御システムを利用した県開発の独立ポット耕システム等の高度化・A I 技術を活用した花きの出荷時期予測及び予測結果に基づいた開花期調整技術 ・柿のサクサク感を非破壊で測定できるウェアラブル端末の開発 ・牛の生体情報を自動計測し、健康状態をリアルタイムでモニタリングできるバイタルセンサーの開発（R4開発終了） ・人工衛星データを使った画像解析システム等により水稻の栄養状態を的確に把握できる技術の確立 ・A I 技術を活用し、画像による病害虫の診断を可能とする技術の確立（R3開発終了） ・環境モニタリングシステムを活用したトマト灰色かび病感染リスクの「見える化」技術の開発（R4開発終了） 							
課題・ 新たなニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs（持続可能な開発目標）や環境を重視する国内外における動きが加速する中で、持続可能な生産技術としてのスマート農業の技術開発が必要。 							
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・第2期計画においても目標指標としており、引き続き、農業者のニーズに対応した、省力化や高品質化につながる革新的な技術の開発推進。 ・環境負荷の低減を視野に入れたスマート農業技術の開発検討。 							

目標項目④	スマート農業推進拠点における展示会・実演会等の開催数							
計画の 進捗状況	年度	現状値	中間目標値				目標値	R4評価
		H30	R1	R2	R3	R4	R5	A
	目標値	—	0	4	8	12	15	
実績値	0	0	4	13	18			
目標の考え方	年間3回×5年間							
取組概要	<p>○スマート農業推進センター展示室における最新スマート農業機器の常設展示や、農協と連携した展示会の実施 協力企業：（株）イセキ関西中部、東海近畿クボタ、 ヤンマーアグリジャパン（株）、三菱マヒンドラ農機（株） 農協との連携：JAひだ（R4）</p> <p>○センター実演ほ場、スマート農業実証農場等を活用した実演会の開催 ・実演ほ場を活用した、大豆(R3)、キャベツ(R4)栽培におけるスマート農機一貫体系の実演 ・恵那（くり）で取り組むスマート農業実証プロジェクトの取組内容の実演（R3、R4）</p> <p>○スマート農業実証プロジェクトや各地域のスマート農業実証成果等の情報共有を図るセミナーの開催 R3：4回、R4:1回</p>							
課題・ 新たなニーズ	<p>○常設展示は企業の無償協力のもとに実施しているが、協力企業の負担増となっている。</p> <p>○コロナ禍で、農協等における展示会の開催などがなかったが徐々に行動制限の緩和。</p> <p>○実証農場は面積が約30 a と小さいため、実施できる実演内容に制限。</p>							
今後の対応	<p>○第2期計画では、当該目標項目は廃止するが、展示、実演会等は継続して実施。</p> <p>○スマート農業推進センターの展示室について、ドローンやリモコン草刈り機などのスマート農業機器について実演会、研修会の開催に併せた短期的な展示の実施など活用方法を検討。</p> <p>○農業者のほ場を活用するなど、地域ニーズに応じた実演会の実施。</p>							

目標項目⑤	スマート農業技術研修及びセミナー等受講者数							
計画の 進捗状況	年度	現状値	中間目標値				目標値	R4評価
		H30	R1	R2	R3	R4	R5	A
	目標値	－	1,000	2,000	3,000	4,000	5,000	
	実績値	0	2,885	3,590	4,444	5,499	137.48%	
目標の考え方	年間1,000人×5年間							
取組概要	○農業者向けセミナー、実演会、研修会、展示会の他、指導者等向けの研修会を開催							
			農業者向け				指導者向け	合計
			セミナー	実演会	研修会	展示会	研修等	
	R1	回数	4	2	9	2	10	27
		参加者数	522	109	949	938	367	2,885
	R2	回数	1	5	19	0	12	37
		参加者数	79	179	327	0	120	705
	R3	回数	4	4	8	0	6	22
		参加者数	402	107	303	0	42	854
	R4	回数	1	5	9	1	22	38
参加者数		121	98	203	374	259	1,055	
合計	回数	10	16	45	3	50	124	
	参加者数	1124	493	1782	1312	788	5,499	
<ul style="list-style-type: none"> ・セミナーは、実証プロジェクトの成果や各種事業の取組結果、各地域の実証など幅広い取組を紹介 ・指導者等研修は、スマート農業推進員や専門員の育成のための主に普及指導員向けのスマート農業技術研修、R4からDX指導者育成研修を開始するなどデータ活用の取組に向けた研修を実施 								
課題・ 新たなニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染拡大の影響で、3密回避など多くの農業者等を集めた研修会などの開催が困難となった一方、WEBを活用したオンライン研修の取組が拡大。 ○オンライン研修では、外部講師もオンラインで参加することで講師依頼がしやすくなった。一方で、一方的な研修になりがちで受講生の理解度の把握が困難。 ○R4年度開催したセミナーは会場とオンラインとのハイブリッド方式で、混乱なく開催。 ○農業の収益力向上を図るためデータ活用が必要であり、農業者向けの研修と併せて、データを活用して栽培や経営改善の指導ができる指導者の育成が必要。 ○高齢化等による担い手の減少や若手農業者への技術習得に向け、デジタル技術を活用した熟練農業者の技術継承が必要。 							

今後の対応	<ul style="list-style-type: none">○第2期計画では、当該目標項目は廃止。セミナー、実演会、研修等はスマート農業技術の普及のため重要であることから、継続して実施。○オンライン研修は定着しつつあることから、オンラインを活用しながら、農業者のニーズに沿った分かり易い研修を開催。○データ活用型農業への転換を図るため、農業者向け、指導者向けのデータ活用研修を充実。○熟練農業者の技術継承については、研修を通じて生産部会等のニーズの掘り起こしを行い、モデル事業を検討。
-------	---